

# 今後の国際石油情勢と原油価格

第376回定例研究報告会「短期エネルギー需給見通し」  
における原油価格想定についての補足

1. 最近の原油価格高騰の背景
2. 今後の需給ファンダメンタルズ展望
3. 今後の原油価格シナリオ

平成14年12月24日

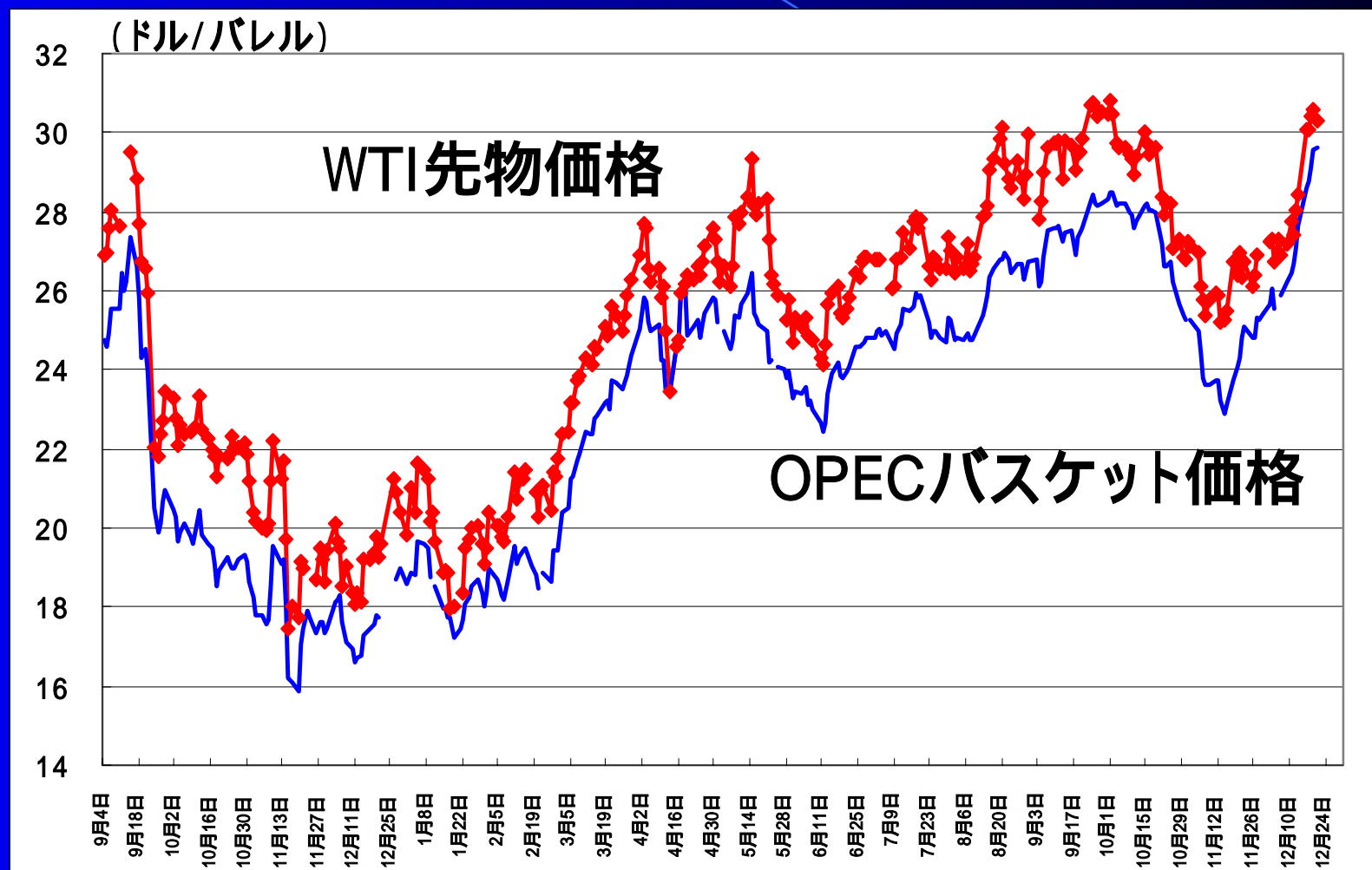
(財)日本エネルギー経済研究所  
エネルギー動向分析室長 小山 堅

# 結論

- 当面は地政学的要因が原油価格動向を主導する
- 需給ファンダメンタルスは2003年以降軟化の可能性
- イラク情勢等に関するシナリオで2003年原油価格動向(WTI)には大きな差
  - 「安定化シナリオ」:24～25ドル(年平均値、以下同じ)
  - 「泥沼化シナリオ」:28～29ドル
  - 「紛争拡大シナリオ」:34～35ドル
- 大きな価格変動、高いボラティリティ持続は必至

# 1. 最近の原油価格高騰の背景

# 同時多発テロ後の原油価格



(出所) NYMEX資料等よりエネ研作成

# 高まるイラク情勢を巡る緊張感

## (WMD査察を巡る動向)

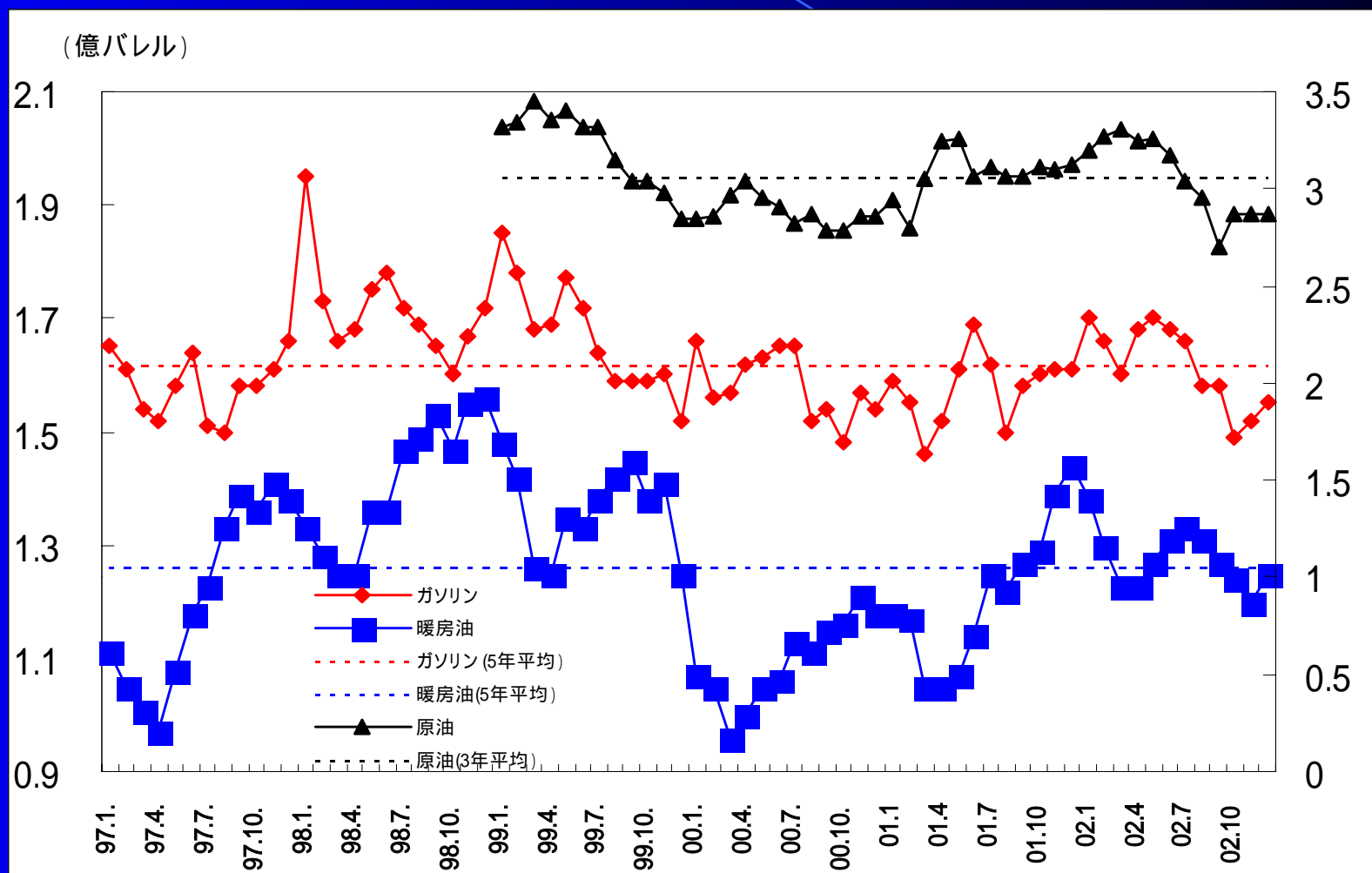
- 11/8、国連安保理は全会一致で決議1441採択
  - イラクに「最後の機会」を与える
  - 大統領宮殿も含めた無条件・無制約の査察
  - 本決議への違反・非協力は「深刻な事態」を惹起
- 11/13、イラク、決議遵守を表明
- 11/28、国連査察チーム、イラク入り
- 12/7、イラクはWMD開発計画を国連へ申告
- 12/20、米、イラク申告に重大な決議違反と非難
- 2003年1/27、査察結果報告期限

**米国はイラクの非協力・違反を「認定」し、軍事行動を開始する可能性も(湾岸へ兵力増派へ)**

# ベネズエラのゼネストとその影響

- 12月初、ベネズエラ国営PDVSAの労働者ゼネストに突入
  - ストライキ前の生産水準(約260万B/D)から100万B/Dを割り込む水準に
  - スト終結・政情安定化の先行きは不透明
- 
- **ベネズエラは米国市場で第4位の主要供給者**
  - **ガルフでは4割近いシェアを持つ重質原油供給者**
  - **ベネズエラ(Short-Haul供給)の代替は困難  
(中東重質原油はLong-Haul供給)**
  - **米国市場(在庫)に逼迫感が即時発生**
  - **米国市場(NYMEX)が世界の原油価格をリード**

# 石油在庫の動向(米国民間在庫)



(出所) EIA資料よりエネ研作成

# 第122回OPEC総会の決定

- 2002年11月のイラク除く10カ国の原油生産量は現行生産枠(2170万)を約240万B/D超過(減産遵守率は6割以下)



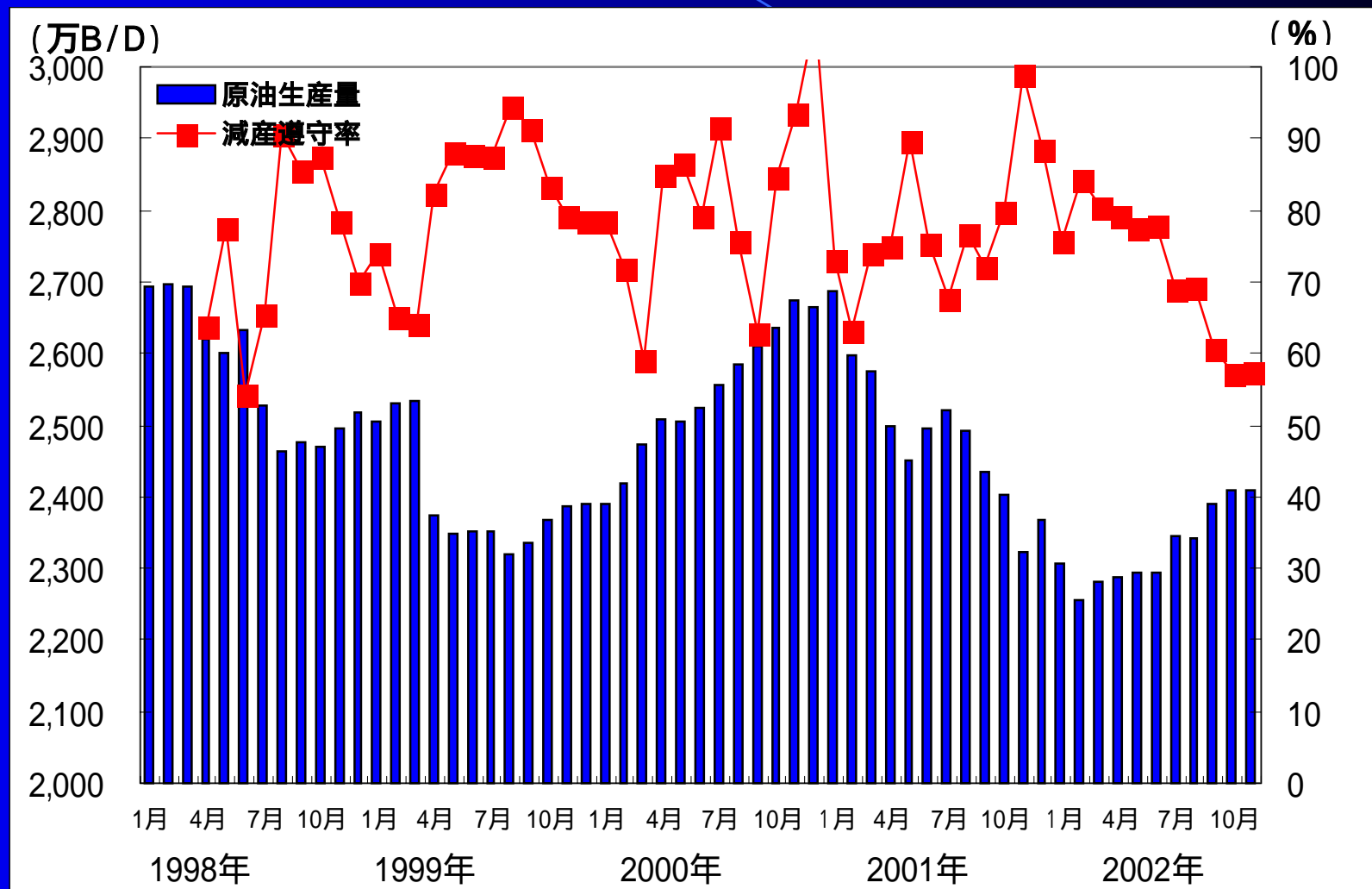
- イラク除く10カ国の生産枠を130万B/D引き上げ、2003年初から2300万B/Dとする
- 同時に生産枠遵守を目指し、超過生産抑制を呼びかけ(サウジは、供給削減率引上げを顧客に通告)

## 狙い:

- 枠引き上げ+超過生産抑制で、「市場の信認」回復を図る
- 次期不需要期(2003年2Q)での生産枠調整の「余地」作り

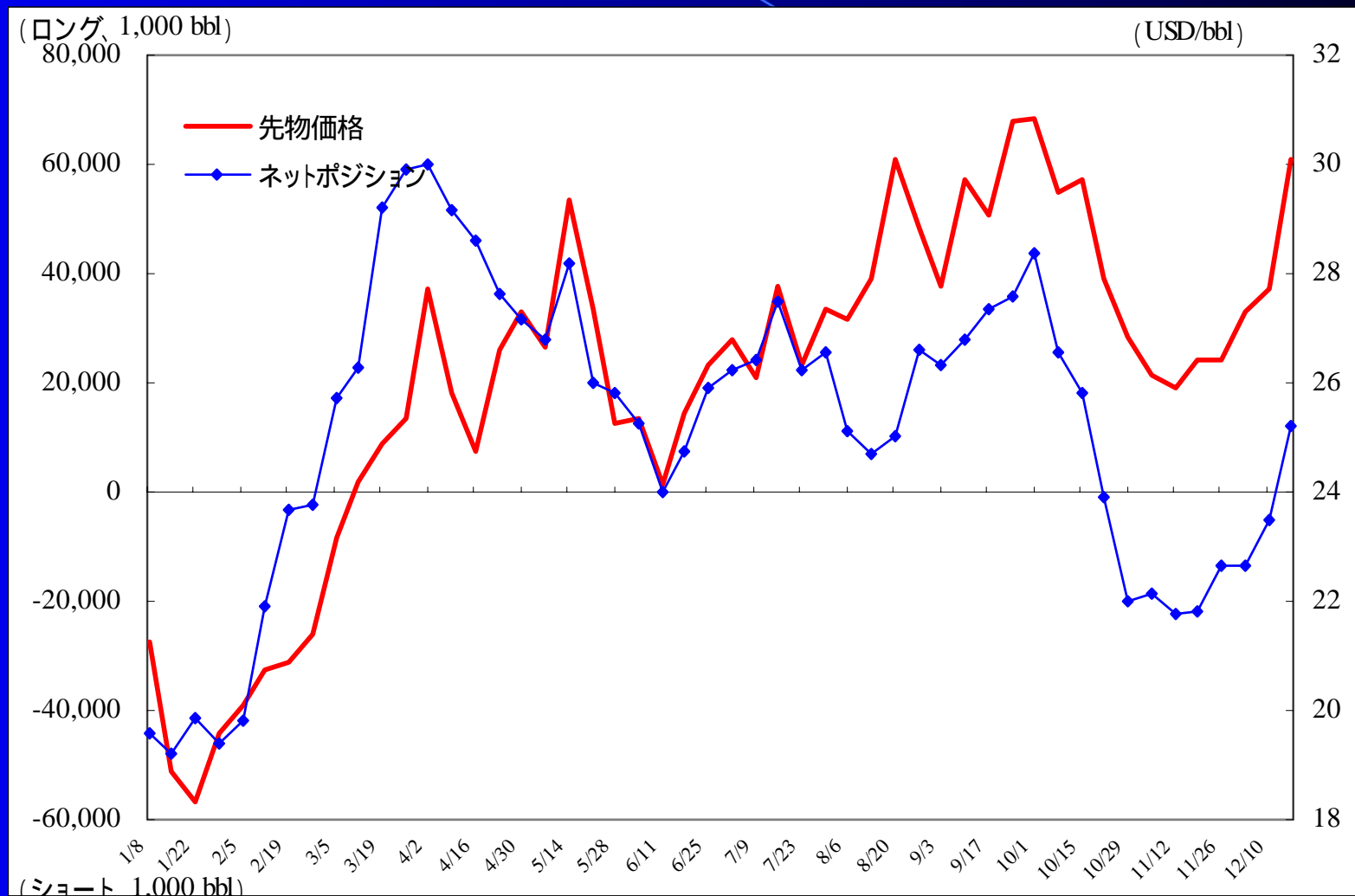


# OPEC生産調整の推移



(出所) IEA「Oil Market Report」よりエネ研作成

# 非当業者とWTI先物価格(2002年)

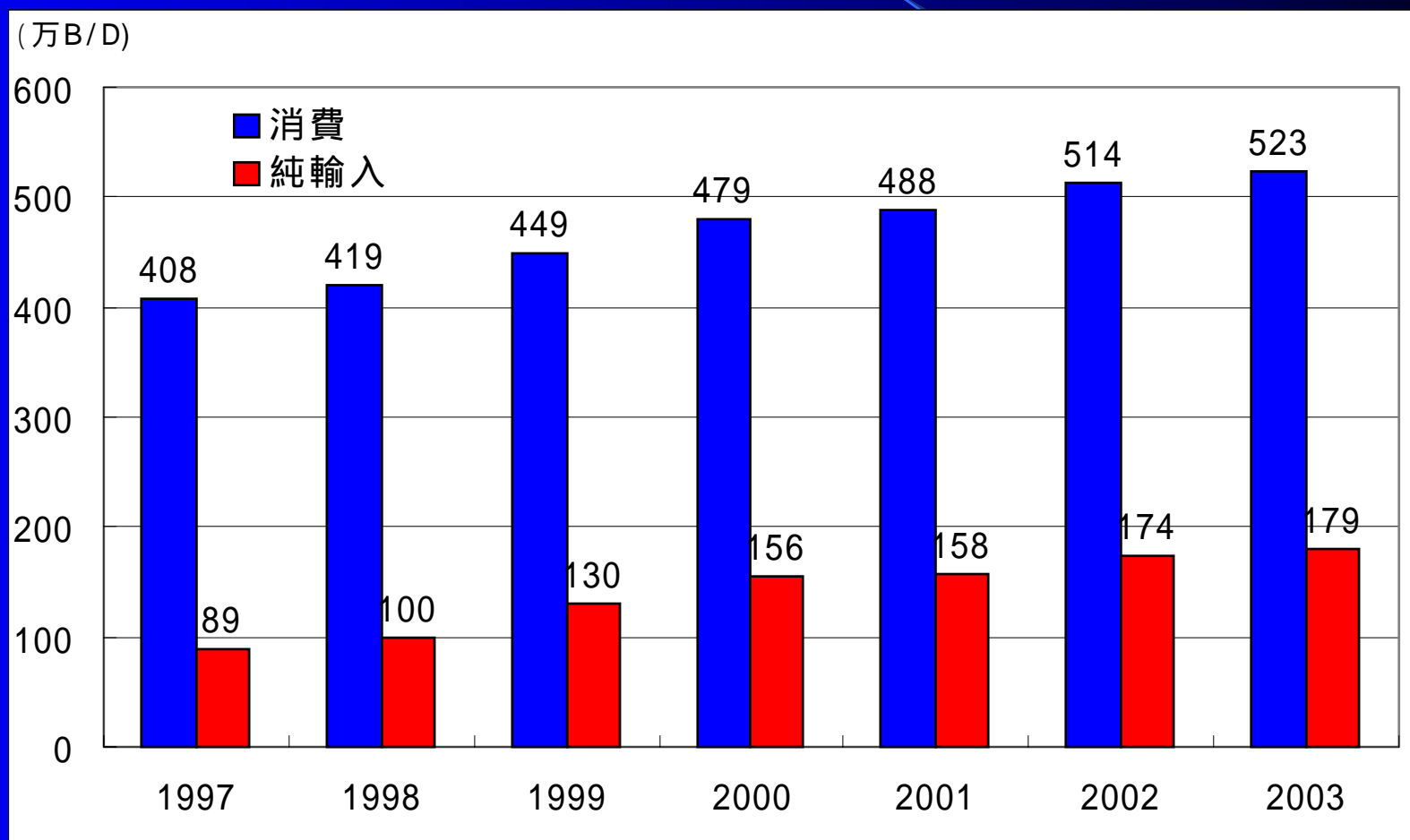


(出所) NYMEXおよびCFTC資料よりエネ研作成

## 2. 今後の需給ファンダメンタルズ展望

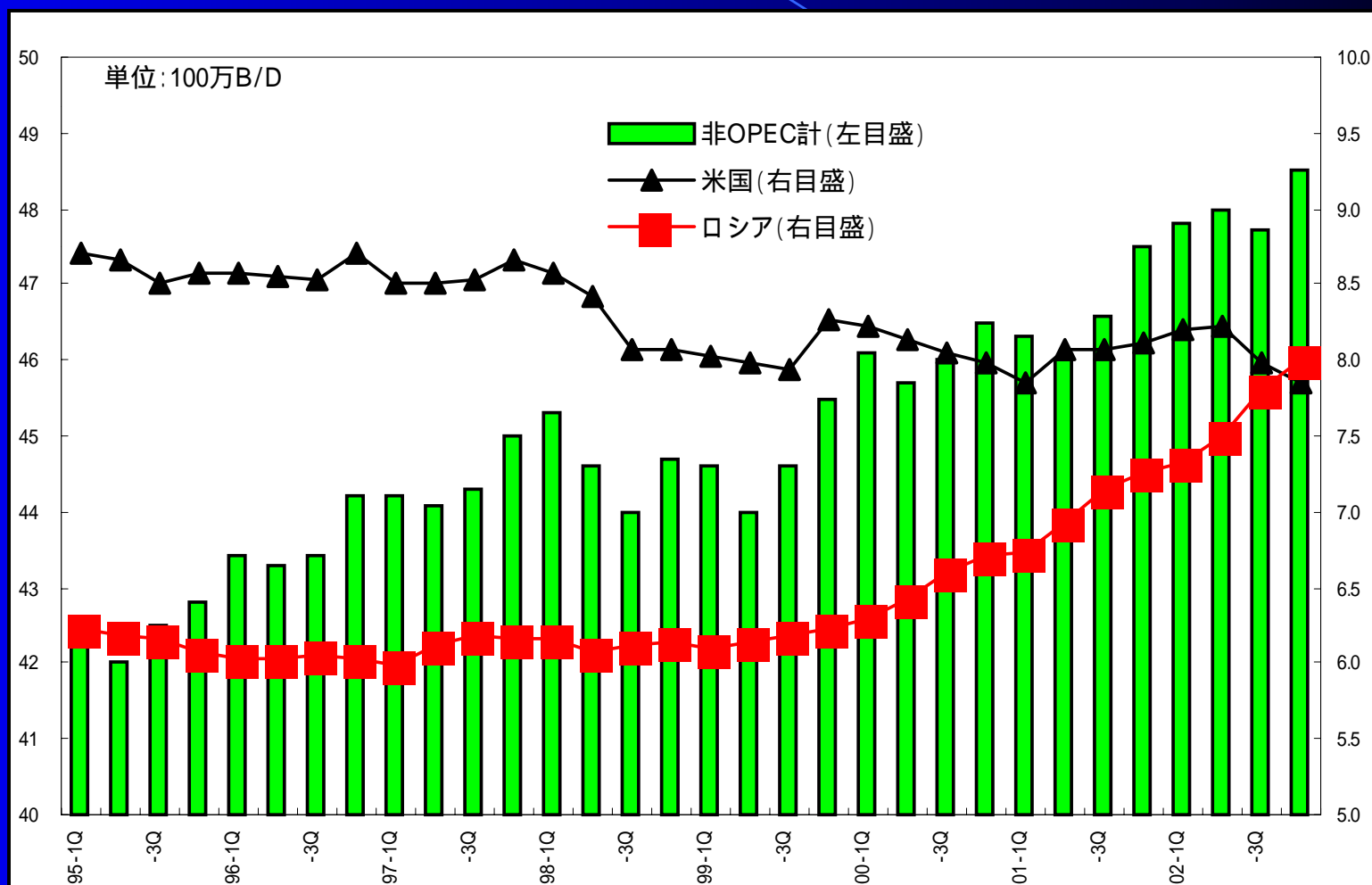


# 鍵握る中国の石油需要・輸入動向



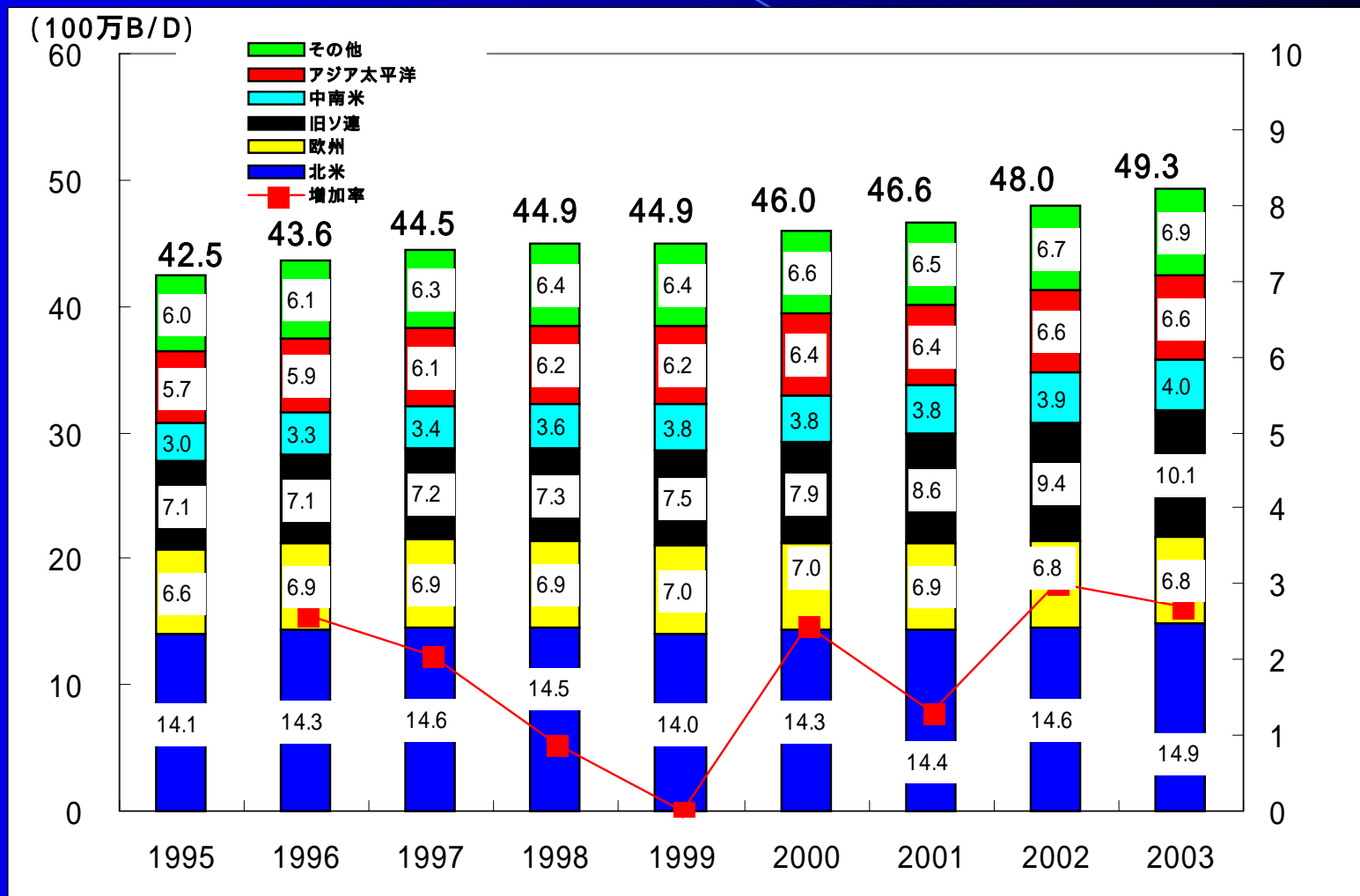
(出所) IEA「Oil Market Report」よりエネ研作成

# 非OPEC石油生産の推移



(出所) IEA「Oil Market Report」よりエネ研作成

# 非OPECの石油生産見通し



(出所) IEA「Oil Market Report」よりエネ研作成

# 総会後のOPEC生産をどう見るか

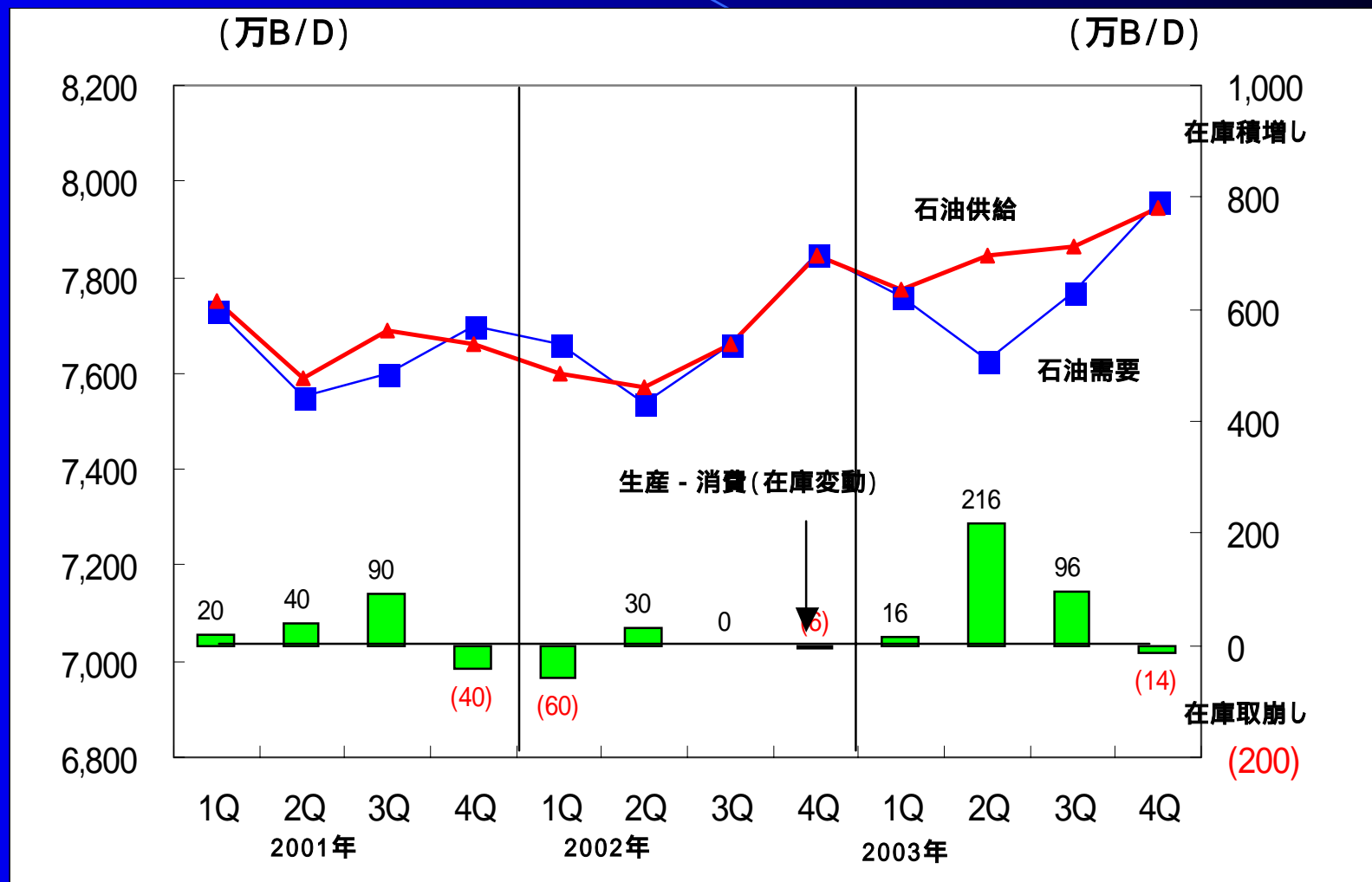
- イラクについては、政治要因が当面の生産量を決定
- OPEC10については(「ベネズエラ要因」を除くと)以下の3つの可能性
  - 生産枠引き上げの結果、全体として増産へ
  - 新生産枠の水準まで、実際の生産量が低下へ
  - 市場のニーズに合わせて供給を継続、現行生産水準からあまり変化せず(新生産枠に対する減産遵守率は向上)
- 大幅な増産 ・ 減産 が実現される可能性は小？



# OPEC生産調整を巡る基本的な問題

- 1998 99年初の原油価格暴落を経て、協調減産体制の立直しに成功
- しかし、2001年以降のOPEC単独減産の実施では需要低下に追いつかず
- 市場(価格)安定化の追及と市場シェアの損失、非OPECによる「ただ乗り」への懸念
- 生産能力が増大し、余剰能力が大きく存在する状況での生産削減維持の困難さ
- 現状での大幅増産は、次期不需要期での深刻な供給過剰発生の原因に
- 不完全な情報、マイクロマネージメントの困難さ<sup>17</sup>

# 短期の石油需給バランス見通し



(注) 2003年1Qイラク生産100万B/D以降180万B/D、2003年OPEC生産枠2300万B/D、順守率80%と想定。

(出所) 2002年3QまではIEA「Oil Market Report」、それ以降は筆者見通し

## 3. 今後の原油価格シナリオ

# イラク攻撃に関する3つのシナリオ

## ● イラク安定化シナリオ

- 軍事目的(フセイン排除)は早期達成。安定政権樹立
- 国際石油市場への混乱は極めて小(湾岸危機型?)
- 原油価格は2003年後半にかけて大きく低下

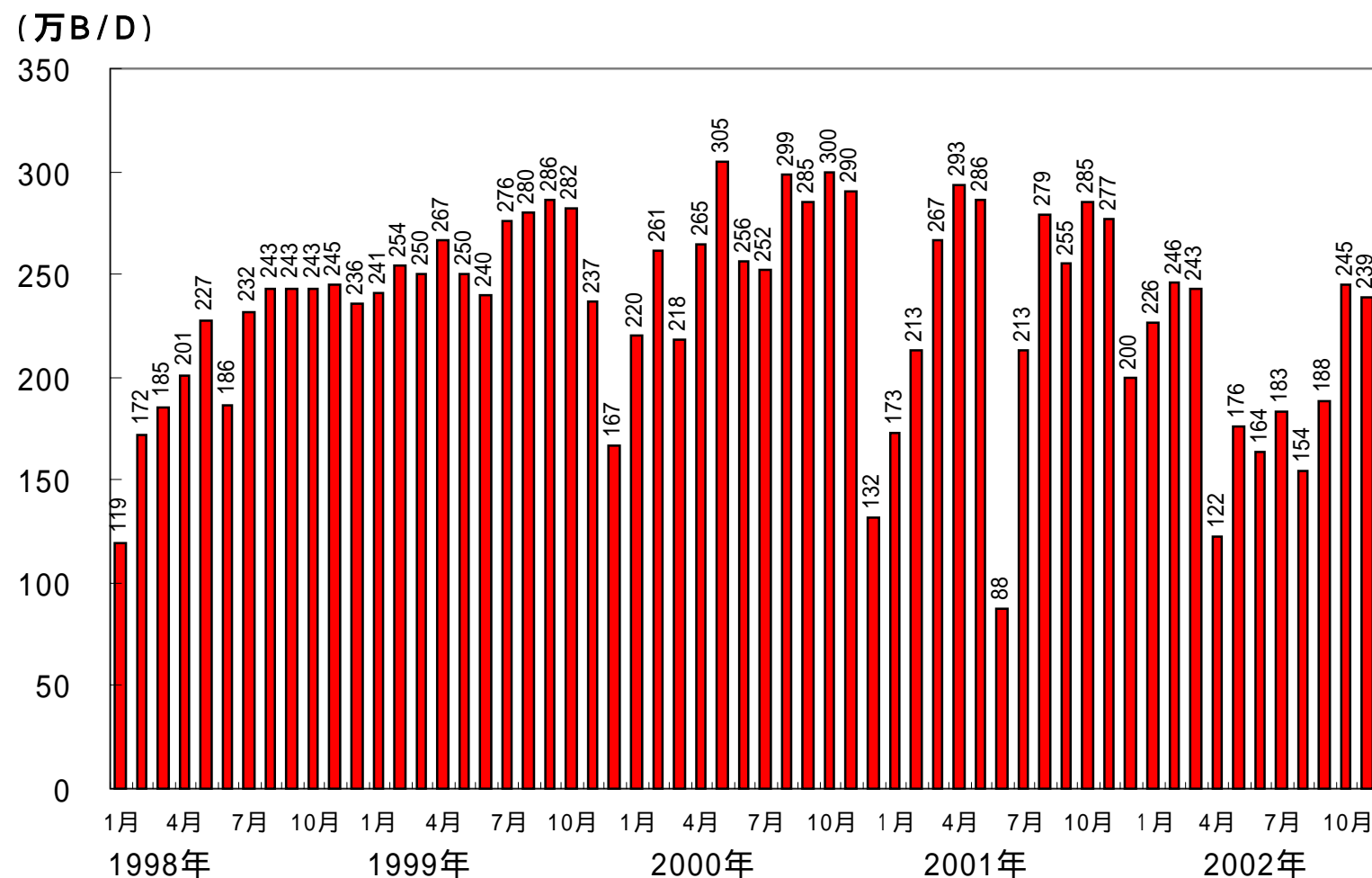
## ● イラク泥沼化シナリオ

- 現政権打倒も、その後イラクは不安定化(南部シーア、北部クルドの存在、現在の主力の非主力化)。周辺地域の介入と不安定化の拡大
- 国際石油市場も神経質な展開
- 原油価格は前半は高値(30ドル前後)推移、その後も低下も乱高下続く

## ● 中東紛争拡大シナリオ

- イラクはイスラエルを攻撃、その反撃で中東は一気に不安定化。穏健派中東産油国も石油武器使用へ
- 原油価格は大幅に高騰。短期的には40ドル強の可能性も

# イラクの石油生産動向



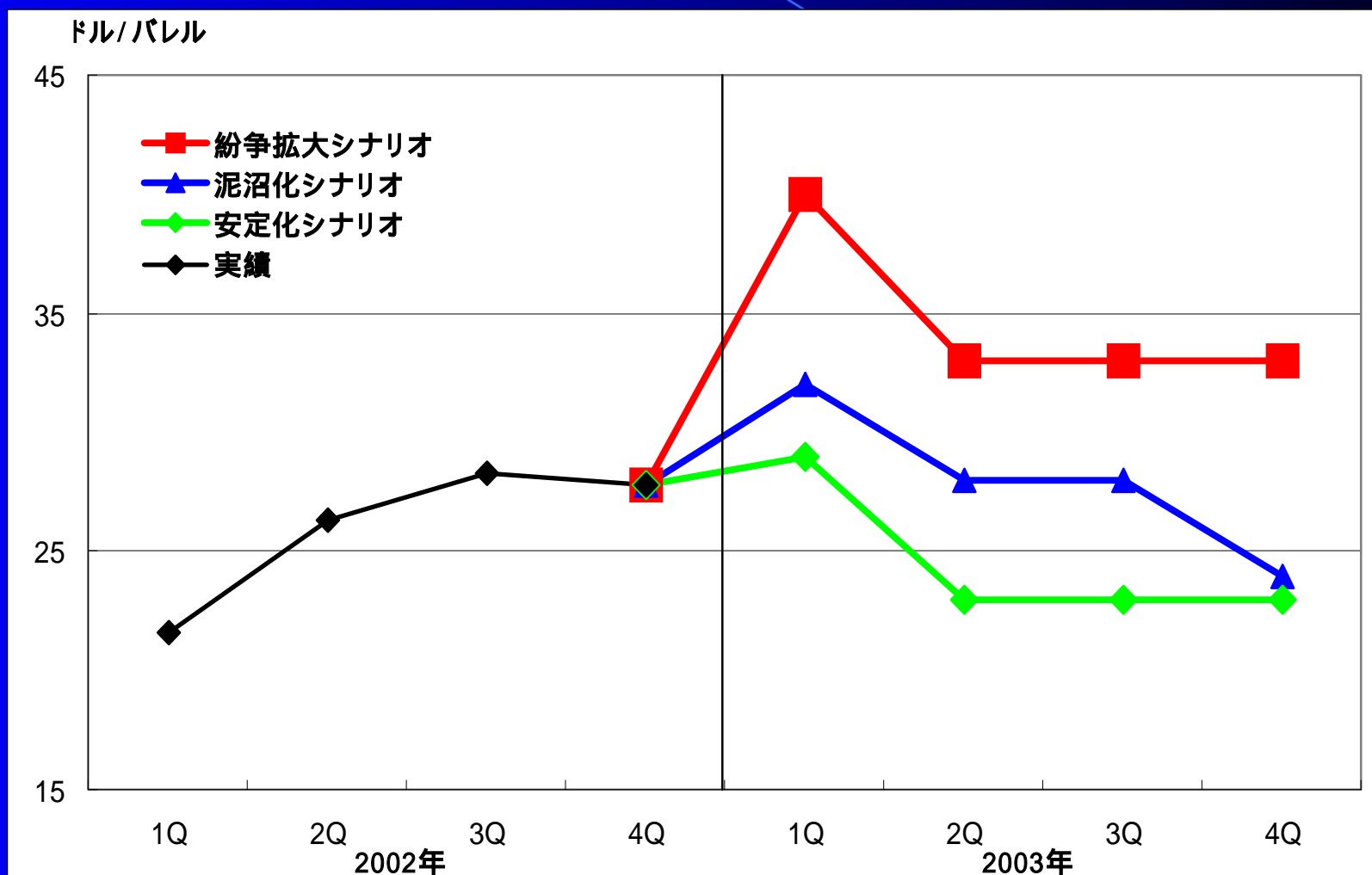
(出所) IEA「Oil Market Report」よりエネ研作成

# OPECの余剰生産能力

	原油生産能力 (千B/D) (A)	02年11月生産量 (千B/D) (B)	余剰生産能力 (千B/D) (A) - (B)	生産枠超過分 (千B/D) (B) - (C)	現行生産枠 (千B/D) (C)
アルジェリア	1,100	960	140	270	690
インドネシア	1,180	1,120	60	-10	1,130
イラン	3,900	3,480	420	290	3,190
イラク	2,800	2,390	410		
クウェート	2,150	1,870	280	130	1,740
リビア	1,450	1,340	110	180	1,160
ナイジェリア	2,200	1,990	210	200	1,790
カタール	750	700	50	140	560
サウジアラビア	9,500	7,970	1,530	920	7,050
UAE	2,500	2,010	490	120	1,890
ベネズエラ	2,750	2,660	90	160	2,500
合計	30,280	26,490	3,790	2,400	21,700
OPEC(除くイラク)	27,480	24,100	3,380		21,700

(出所) IEA「Oil Market Report」よりエネ研作成

# 各シナリオでの原油価格トレンド



(出所) 工ネ研作成

# 今後の原油価格をどう見るか

- 国際石油市場では、イラク問題、ベネズエラ問題等の不安定要因が当面のドライバーとして浮上。
- 今後の需給の鍵を握るOPEC10の生産動向
- 2003年以降、ファンダメンタルスのみに注目すると弱含みの方向へ向かう可能性。
- しかし、実際に市場をドライブするのは、市場心理。そして心理を動かす可能性大の地政学的(不安定)要因
- 今後のイラク情勢の展開如何で、大きく分かれる市場・価格シナリオ(2003年後半については、20ドル前後から30ドル超までの幅で可能性)
- 「市場心理」、「ファンダメンタルス」、「イラク情勢」等の影響で揺れ動く原油価格、今後も高いボラティリティの持続は必至